

第2回佐久市地域公共交通確保維持改善協議会 会議録

日 時：平成23年6月1日（水）

15：30～16：30

場 所：佐久消防署3階 講堂

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告事項

4 協議事項

(1) 佐久市生活交通ネットワーク計画策定調査業務実施計画（案）について

- ・事務局より資料説明
- ・質疑、意見等

委員	関係機関へのヒアリングはどれくらいの量を行うのか。
事務局	現時点では、具体的に何件かということは設定していないが、できるだけ多くの機関へ行いたいと考えている。
委員	公共交通を利用する世帯は、全体の1割にも満たないと思う。4,000世帯のアンケートを行った時に、どれくらいの交通弱者が対象になるのか想定しているか。
事務局	アンケートの中では、公共交通を利用する人はなぜ利用するか、利用していない人はなぜ利用していないか等の理由をお聞きする。しかし、現段階では、どれくらいの人公共交通を利用しているか全くデータがないため、利用者がどれくらいの割合で対象になるかも分からない。そのために、実際公共交通を利用している人に直接お話しを伺うため、ヒアリングを行うものである。
委員	ヒアリングは注意して行っていただかないと、他の公共交通会議等でも、出てくる結果と交通事業者の中で聞いていることと全く違うことがある。利用者の「ありがたい」という声の中で、なかなか本音が言えない事業者がいるので、うまく実情を引き出せるようお願いしたい。
委員	地区懇談会はどのように行うのか。
事務局	アンケートやヒアリングの結果がある程度出た段階で、一度地区に説明に伺いたい。市内7地区での開催を予定している。その後、素案が出来たところで、もう一度行いたいと考えている。
委員	高齢者のアンケートが世帯用4,000件の中に入ったとのことであるが、例えば独居の方や高齢者のみの世帯の場合、字が読めなかったり書けなかったりして、回答が得られない可能性がある。ご近所

事務局	の民生委員さんに情報を流して、聞き取り調査をやるといったことは考えられないか。
委員	アンケートで個人の方を訪問することは難しいため、高齢者や障がい者の団体等からまず話を聞かせていただきたいと考えている。
事務局	関係機関へのヒアリングは、市内にどれくらいの施設があるためどれだけの人を対象にするといった具体的な考えはあるのか。
会長	ヒアリング調査は、例えば病院に通っている個人の方にお聞きするのではなく、団体や機関等に行うことを考えている。できるだけ多くの団体や機関等へヒアリングを行いたいと考えている。
	様々なご意見をいただいたので、参考にしながら原案通り進めていく。

(2) 市民アンケート調査（案）について

- ・事務局より資料説明
- ・質疑、意見等は特になし。
- ・質問内容については案のとおりとし、回答者が答えやすいレイアウト等については、今後、調査の委託業者とも相談してよりよいものにする。

(3) 長野県生活交通ネットワーク計画策定に係る地域間幹線系統別確保維持計画（原案）について

- ・事務局より策定の必要性やスケジュール等の概要について説明
- ・千曲バス株式会社の木内委員より計画の内容について説明
- ・質疑、意見等

委員	5名の乗車密度を確保するという説明があったが、バスの大きさを変える考えはあるのか。あと、補助金についてお聞きしたい。
委員	バスは、例えばある車両が中仙道線だけを運行するのではなく、もっと狭い所を走ったり、スクールバスとして走ることもある。そうしたことから、効率的なダイヤを組んだり、利用者の最大公約数の規模のバスを走らせるのが、最も効率的な運行である。佐久上田線では、乗車密度5人とすれば20人乗り程度のバスで足りるが、そのバスをスクールバスとして使うとすると、乗りきれないという状況になってしまう。このようなことから、現在は9mのバスが主流で、立ち席も含めて40人から55人規模のバスが一番効率的である。燃料的にも、大きなバスと小さなバスで大きな違いはない。むしろ経費で割合が大きいのは人件費のため、小さなバスにしても経費の大きな節減にはならない。
会長	この3路線については、県の方から利用促進について協議するようご指示があるとのことだが、委員の皆さんから何かありますか。
(委員)	(特に意見等出ない)

会長 事務局	事務局から何かありますか。 公共交通利用が増えるためには、より多くの市民の皆さんに公共交通を利用する意識を持っていただくことが重要であると考えている。そのため、広報誌等を活用して、幅広く市民の皆さんに公共交通の現状を知っていただいたり公共交通利用を呼びかけたりしてはいかがかと考えている。
委員 事務局	市役所の職員が日にちを決めて公共交通を利用して出勤したり、企業にお願いして公共交通を利用してもらったりできないか。 市としては、マイカーを使わずに出勤する週間を現在行っている。この取り組みは、環境面から取り組んでいるが、公共交通を利用するという観点からも実施していきたい。また、広報誌等を活用して、市民の皆さんに出退勤や通学で公共交通を利用していただく呼びかけをしていきたい。
会長 (委員)	今いただいたご意見も踏まえ、事務局の案のとおりでよいか。 (異議なし)

5 その他

・質疑、意見等

委員	市内を走っているバスの料金は全部一律だと思っていたが、そうではないようなので、料金体系についての資料を示していただきたい。
事務局	千曲バスさんや東信観光バスさんにはそれぞれの料金体系があり、市で走らせている巡回バスは100円であるなど、違いがあるので調べてご提示する。
委員	アンケートは読まれない時点で回答率が下がる。どんなに見やすくしても、お年寄りには読まないことが多い。アンケートで大切なのは、アンケートを行った後にモニタリングをすることであり、良好な意見の回答者の方に集まっていただいて生の声を聞いたらどうか。
事務局	アンケートは、どなたからの返信か分からないことを大前提に行う予定のため、モニタリングは厳しいと考えるが、参考にさせていただく。
委員	アンケートをこの場で配られて意見を述べるのはなかなか難しいので、できれば事前に配ってほしかった。
事務局	事前に配布する予定で作成作業を進めていたが、今日ようやくお示しできる状態になったため、申し訳ございません。次回からは、事前にお配りして会議に臨んでいただけるよう、早目に資料を作成したいと考えている。
委員	アンケートを市役所の中に置くことは考えているか。多少は多く

事務局	<p>結果が得られると思う。</p> <p>アンケートの他にヒアリングも行うが、参考にさせていただきたい。</p>
委員	<p>補助金について説明をお願いしたい。</p>
委員	<p>国の制度が変わり、沿線市町村でも協議していただくことになった。理由は、住民や利用者の意見を反映した計画を国へ出すこととされたこと、地域内を走る地域内フィーダー系統も補助の対象となり、補助要件として地域間を走る系統に接続することとされたことなどから、地域内のデマンドやコミュニティバスと地域間系統を合せて議論をお願いした次第である。</p> <p>今まで国や県が補助をしてきた中で、なかなか地域の議論が進まず補助対象路線が減少してきており、地域の足が危うい状態になってきている。補助の対象になるには、ある一定の輸送量が確保されている必要があり、1日ずっと15人以上利用している路線といった基準があつて、これは相当利用されている路線と言えるが、赤字も多い。しかし、地域にとっては非常に重要な路線のため、守っていくには地域で議論して利用促進していただき、路線が存続されるよう、今回議論をお願いしている。</p> <p>補助金の積算は、予想される運行回数、経費や収支を算出し、予想される欠損額の1/2に補助が出る。前々年度の数字を使って経費や収支を予想する。先ほどの計画は、前々年度の実績に基づいて、千曲バスさんが積算したものである。</p> <p>今後、利用が促進されるように、コミュニティバスやデマンド交通、民間のバスも合せて、市と委員の皆さんと一緒に議論していただければと思う。</p>